

寄贈

特240

810

パンフレット第二十七輯

成功への道——

耕地生活の秘訣

日伯協會

始



特240  
810

日伯協會は日伯兩國の國民的親善を計り、彼  
我國の國情と國民性を紹介し、併せて日伯貿易  
並に對伯移植民の健全なる發達を促進する  
ことを以てその使命とす。

發行所寄贈本

序

如何なる動機に依り、またどんな希望を抱いてブラジルの新天地をめざすに  
しても、多くの場合、その第一課はコロノの生活である。即ち成功を謳歌で  
きるのも、一時的失敗に呻吟せねばならぬのも、一にかゝつてコロノ時代の  
遺方如何にあるといつても過言でなからう。然らばかほどに重要なコロノ生  
活は如何にすれば最も有効に且つ安全に過すことが出来るか。それは先づ體  
験によつて會得せねばならぬのは勿論であるが、その秘訣を有能な先輩の經  
験に聽き、よく玩味して以て参考としつゝ、移住第一課の健實なる設計を樹て  
ることが如何に有利なるかは多言を要しない。さて先輩の經驗を敲くの途は  
何によるか。

本輯を「耕地生活の秘訣」と題し、在伯邦人中實際家としての最高權威矢  
崎節夫氏の勞作を特輯するゆゑんは、右の要求を満し、後進を益しやう爲に  
ほかならぬ。精讀してよく秘訣を體得されたい。

尙本輯は既刊第二十五輯「獨立農となる人のために」の前篇を爲すもの、  
併讀して將來の進路に資せられんことを望む。

昭和十一年三月

編者



成功への道

耕地生活の秘訣

序……………

一、耕地及びコロノ……………(一)

二、耕地の制度とコロノの日課……………(四)

三、コロノの心得……………(九)

四、生活合理化の必要……………(一六)

五、収入支出の樹て方……………(三)

成功への道

耕地生活の秘訣



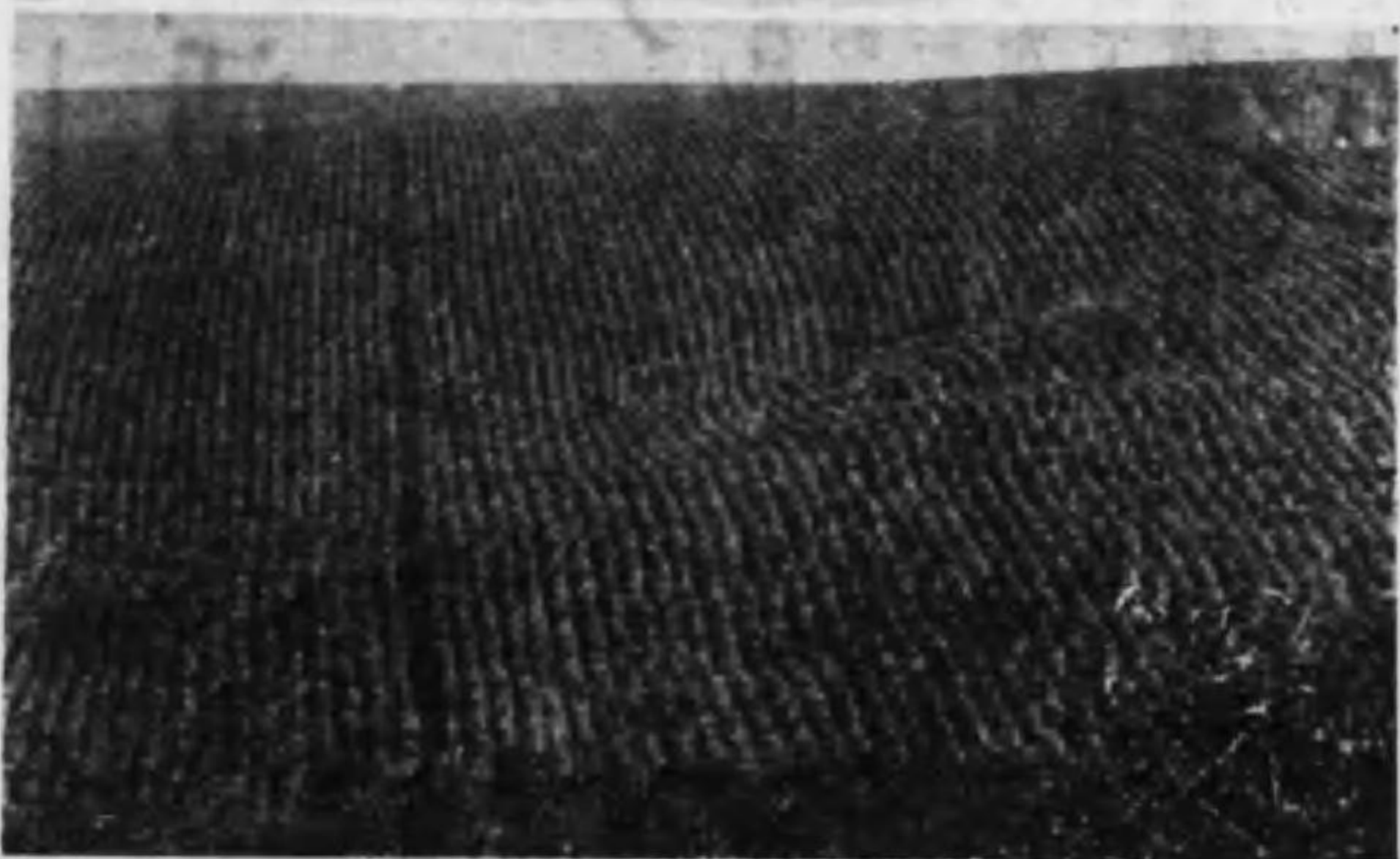
ブラジル拓殖組合  
事業部長 矢崎節夫

耕地といふのは、つまり珈琲栽培農園を指して言ふのであつて、從來サンパウロ州の農村は殆ど珈琲の栽培が主となつて居たから、一と口に耕地と言へば珈琲栽培農園の意味となつたものである。その耕地も一般に頗る大規模なものであつて、珈琲樹十萬乃至三十萬本を植栽する面積にして約四百町歩乃至一千五百町歩位のものが一番多く、中には珈琲樹四百萬本面積一萬町歩に及ぶものすら

ある。普通珈琲樹七、八萬本面積二百五十町歩以上の珈琲園をファゼンダ(Fazenda)と言ひ其れ以下のもをシチオ(Sítio)と言つて居るが、ブラジルの農家は此の大珈琲園主たる大地主(Fazendeiro)となる事に日夜憧れて居るわけである。耕地の最も多く分布されて居る地方は、サンパウロ州中、州の東北隅モジアナ鐵道沿線及びパウリスタ鐵道沿線であつて、此の地方は特に大耕地が多く、其の中心地はリベロン・プレート市附近である。最近はソロカバナ鐵道及びノロエステ鐵

道沿線に於ても盛んに設備され、日本移民の新設になるものも多く更にパウリスタ鐵道の延長地帯も次第に開發されて來たが、例の珈琲植付制限令の發布以來少しく其の氣勢を殺がれた形である。耕地の經營は英、伊、獨其他外國資本團體の經營を除けば概して個人所有でその勢力は素晴らしいものがあり、ブラジルの財界政界は全くフアゼンテイロによつて牛耳られて居ると言つて良い位である。

斯様に大規模な珈琲農園を經營してゆくには、勢ひ非常に多量な勞働力が必要となる。此の勞働力を供給する者が即ちコロノ(Corono)である。別にカマラーダ(Camarada)



(地耕ラバタアグ)海樹非珈るた注彫

11  
Camarada)と稱する日傭勞働者があるが、之は別に説明を要しない。  
コロノは耕地勞働者の意で本來奴隸制度の存在した當時移民契約によつて渡來した外國移民を、奴隸と區別して名づけた名稱であつたが、今日では轉じて「珈琲農園に於ける一農年契約勞働者」の意に用ひられて居る即ち一農年間或る一定の耕地に於て珈琲栽培其他の勞働に従事すべく契約を以て雇傭された農業勞働者であつて、故に毎年其の需要が生じ其の需要を満す目的を以て移民が行はれるのである。現在此の需要を最も

好條件を以て滿しつゝあるのが日本移民であつて日本移民の殆ど全部がコロノたる目的を以て誘入せられるのである。即ち契約移民と稱せらるゝ所以は此の珈琲園に於ける勞働力補填の爲めに送出する移民に對し實施した保護獎勵の手段及びその移民が一農年契約を結ぶ所から名づけられた名稱に他ならない。單的に言へばコロノなのである。

ブラジルの農業特にサンパウロ州の開發が急激に進むに伴れて、耕地勞働力の需要も亦激増し盛んに外國移民を誘入したが、就中伊太利移民を最も優良として好遇し一時は移民間に覇を唱へたが、後年兩國間に誘入契約上の事から紛争を生じ杜絶して終つた。之に代つて日本移民が登場したものであつて現在では諸外國移民中、珈琲園向の勞働者として唯一の聲價を占めて居る。耕地の勞働力は分散せず一定期間を繼續するものでなければならぬから、日本移民の家族を主體として分散せざ

る勞働力が好適と見られたわけであり、移民募集に當つて特に此の點を重く見る所以である。

コロノは耕地に入つた後尠くも一農年間各耕地毎に独自の契約を以て就働條件を定めて勞働に従事する。その契約は一般條件として耕主の權利義務、コロノの權利義務、コロノの契約破棄を正當とする事由を規定し、別に各耕地の事情によつてコロノの勞銀、支拂、間作等に關し特殊條件の規定を許して居る。此の特殊條件が直接コロノの生活に影響するものであつて、耕地の良否は他の物的或は心的條件と共に多くは此の特殊條件によつて云々されるものである。中途退耕等の紛争も多くの場合勞銀、間作の條件如何に耕地勞働の苦痛に基因するものが多い。其他農業勞働手帳制度とか農業勞働者の債權擁護法とかコロノ保護の制度が種々と實施されて居て、其他の耕地諸設備と共に今は最早以前に惡宣傳されたやうな「コロノ地

獄」などと言ふ思はしい存在は皆無であると言つて良い。

## 一、耕地の制度

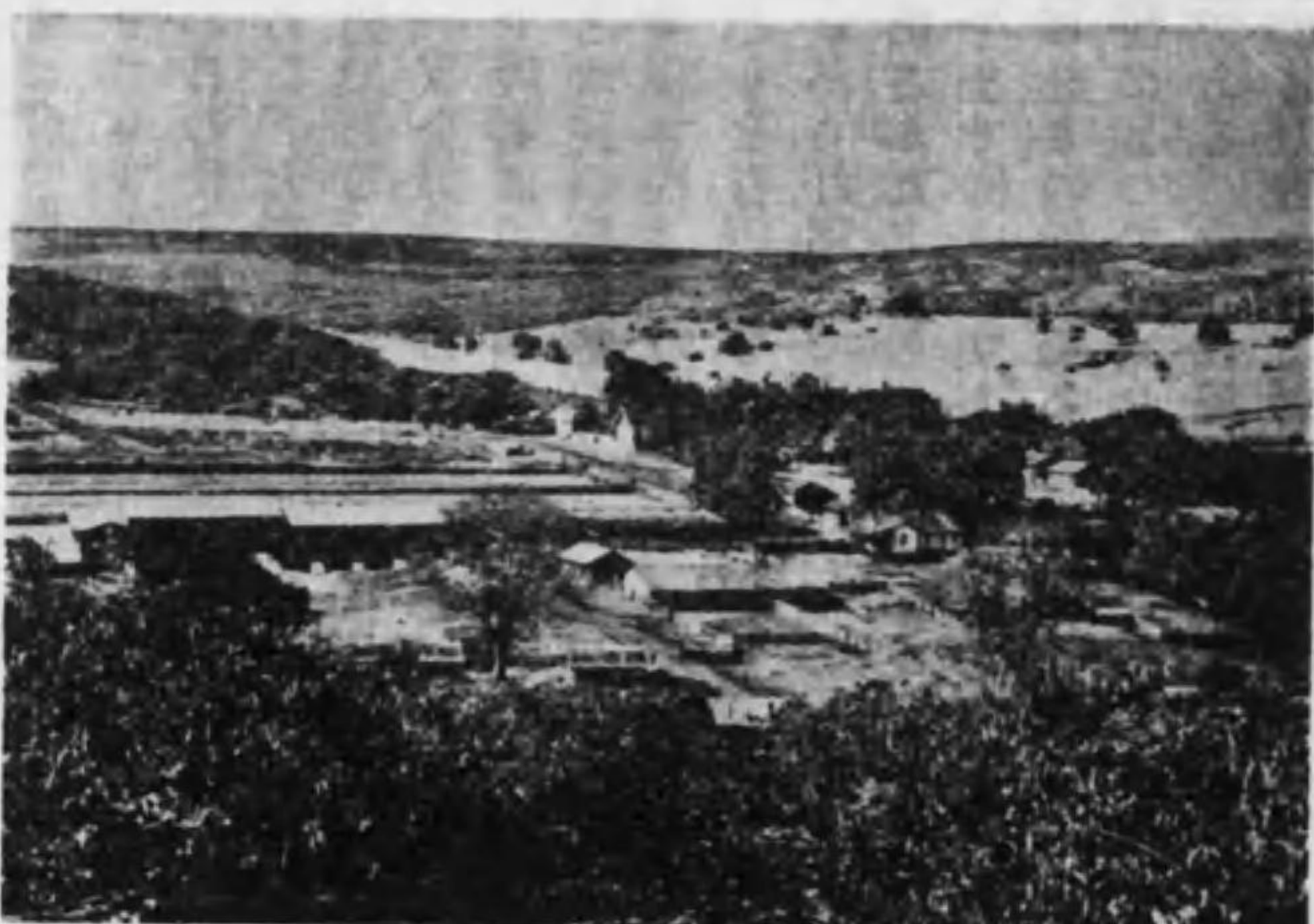
### コロノの日課

フアゼンダの仕事はすべて耕主自體は直接コロノの指揮監督に當つて耕地現場の仕事に手を出さない。支配人が居て一切を切り盛りし、その下に書記及び監督を置いてコロノを統制して日課を指揮して居る。日本移民の爲めには双方の便宜上特に耕地通譯と言つて在留日本人中ポルトガル語の比較的よく解る者を選んで通譯せしめ、双方の意志疏通に當らしめて居る。二、三年前から此の耕地通譯の相互扶助、向上修養等を目的とした協會が創められて居るが従來兎角の批評が絶へなかつた。勿論以上の組織は大耕地の例であるが、小耕

地では支配人が監督を兼ね監督が通譯を兼ねるのも少くない。何れにせよ耕地側は之等の指導機關によつて耕地の仕事を進めて行くのである。

設備も無論耕地によつて違ふが、先づコロニア(Colonia)と稱ぶ契約労働者の住宅區域が耕地内の最も適當と認めらるゝ地點に設けられ、之は大耕地になると二、三十戸宛のコロニアが數ヶ所もある。住宅と言つても極く粗末なものもあり、大抵は三軒長屋が普通で、以前は煉瓦造もあつたが最近出来るものは木造が多い。床は板敷、煉瓦敷土間と一定して居ないし、屋根も天井が無かつたり有つたりして之も一定しない。たゞ相當人數の家族が充分に寝られるだけの廣さはあるから安心して良い。住宅の後方には野菜畑、養豚等を設備するだけの空地が附屬して居るのが普通であつて鶏などは全く放飼で籠かに高い止り木さへ與へて置けば良い。別に牧場設備のある耕地もあつて、

自給自足の建前から就働者はすべて野菜も自分で作り、豚、馬、牛、鶏等々自由に飼養出来るやうになつて居る。コロニアの附近、或は各コロニアから中心となる地點には事務所、倉庫、日常品、食料品等の賣店や製材所、精米所、鍛冶工場、學校等の設備から良い所になると薬局などもある勿論珈琲に關する萬端の設備は大なり小なり完備されて居る。唯醫者の居る耕地は極めて尠い。多くは其の附近の開業醫と契約して必要な場合に來診を請ふことが出来る。大概一箇月日本貨にして一圓内



部本地耕非珈

外を耕地の方へ支拂つて置く。と夜間急病の場合でも無料で來診して呉れるから決して心配なく利用するが良い。學校も大耕地や日本移民の多數集團して居る地方には殆どあるから通はせれば良い。大概の場合耕地へ入つてから三ヶ月程も経つて通はせるやうであるが之が半年か一年たつと立派に言葉を覺へて非常に役に立つやうになる。兎に角、耕地生活に必要な設備は一通り揃つて居るから何等心配はいらない。農村の生活は極度に不必要を切りつめたものと覺悟して居らねばならぬ。

コロノの日課は季節によつて違ふが、先づ時間的に言へば、毎朝五時前後に起きてコーヒーとパンとで朝食を済ませ、手早く其の日の仕事準備を整へる。六時頃には愈々出勤である。大概監督が鐘を鳴らして出勤を促すのが普通である。そこで割當てられた受持区域へ行つて一家全労働能力を傾注して仕事を勵む。九時から十時頃に、普通朝食と言つて居るが辨當を使ふ。之は其の任に當つた家人が調べてコーヒーと共に持参する。此の場合家族が多いと、自然炊事番ひとりを省いても一家の労働能力には支障を來さないから好都合である。元氣なお老婆さん、年頃の娘さんなどが居ると頗る重寶である。それから正午まで働いてコーヒー、午後三時頃晝食、其後仕事終りの鐘が鳴る迄働く。其の時間は所により季節によつて一定しないが、大概五時から六時の間である。夕食は歸宅後に認める。夕食準備の爲めに其の番にある者

は就働時間中でも歸宅して良い。原則として契約労働者の労働は非常に嚴格で、時間を規則正しく守らねばならず、受け持ち量に對して第一に全力を注ぐことゝなつて居るから、契約條件によつて間作や餘作が許されて居ても、時間中はその方へ掛つて居られない。であるから大概は一日の仕事が終つてからとか、日曜日とか休日とかを利用して自家用の收穫を工面する。或は充分に労働力ある家族はその一部を割いて之に廻はす方法を取つて居るが、之は誤解を招き易いから豫め充分耕地側の諒解を得ておかねばならぬ。日課が終れば初めて解放された身體となるのであるが、夕食後は充分に休息をとつて早く就眠し、翌朝の新鮮な英氣と體力とを養ふやうに心がけねばならぬ。飲酒に耽つたり手弄みに夜を更したりすることは、絶対に避けねばならぬ。

次にコロノの日課を仕事の種類から言へば季節

によつてちがふが、先づ之を大別すると

除草 十月から翌年の四月迄

珈琲實の採取 五月から九月迄

となる。耕地の労働は此の二つの仕事を順序よく最少の經費で最大の効果を擧げて行くやうに仕組んであるのである。次に其の内容を簡単に説明しておかう。

先づ耕地へ入ると各自の労働能力を見積つて珈琲樹株数を決定して貰ふ。即ち受持本数を決めるのである。之が基本となつて種々の契約條件が決定され正式に調印するのである。其の数は各自の労働能力によつて種々と異なるが、先づ日本人ならば一戸當り凡そ五、〇〇〇本から一〇、〇〇〇本までの間と見てよい。外國人の中には一五、〇〇〇本以上を受け持つ者も無いではないが、此れなどは寧ろ例外と言つて良い。自家の能力を考へて決して無理な受け持ちをしてはならない。今假りに

十月頃入耕したとすると日課の仕事は除草である。雜草は土地がらによつて生へ具合が一樣でないから、自ら除草に難易があるわけであるが、一般に年五、六回と云ふ所が普通である。除草が一と通り行き互つて採取期が近づくと「山立」と云ふ作業が行はれる。之は珈琲樹株の根元を中心として枝葉の繁り一杯の範圍を清掃し、その土砂や草や樹枝等を集めて之を樹列の中央に堆積し、清掃した地面を出来るだけ固めて果實採取に都合よいやう萬端の下準備をする作業である。之が済むと愈々五、六月の頃から採取にかゝる。ブラジルの秋である。

珈琲果實の採取は豫め支配人又は監督が摘取個所を指定する。勝手に思ひ／＼の樹から摘取ることは許されない。又必ずしも除草を受け持つた個所とは限つて居ない。珈琲樹は高さ六尺位から一丈二、三尺にも達し、細い枝が四方に出て居て果

實が眞赤に實つて居る。採取作業は此の實をしごき落すのであるが、樹下の地面に直接落す場合と敷布を用ひ其上に落す場合とある。敷布を用ゆる場合は直ちに篩にかけるが地面に直接落した果實は二、三日たつと自然に乾燥するから、之を集めて篩にかけ、埃や泥や塵を除いて果實だけを豫め用意された一〇リットル入の麻袋に入れて、附近の道路まで運び出して置く。自動車か馬車か更に之を乾燥場に運んで行く。その袋には各自の番號がついて



（近附トーレブ・ンロベリ）穫收の啡珈

居て誰が何依搬出したか一見して判明するやうに出来て居る。各自の搬出数は後で精算して監督から通知して呉れる。之に一袋幾何の單價を掛けたものがその期の採取賃銀としてコロノの収入となるのである。果實採取が九月頃に終ると前に「山立」をした反対に、今度は「山散らし」と云ふ作業を行ふ。前に集めた土を崩して珈琲樹の根元に返へすのである。此の作業を終へると初めて一農年期後から採取期に入つて入

耕した者は一農年期を完了せぬため、更に翌年度の「山散らし」までを一農年期として就働すべき義務があることになつて居る。だから入耕時期によつては一農年期に長短があるわけで此の點はよく了解して置かないと不可ない。

### 三、コロノの心得

以上でコロノの仕事の大體を會得されたと思ふが次にコロノ生活上重要な心得に就いて述べて見たい。之は筆者が二十餘年に亘る経験の粹を蒐めたものと自負するものであつて、少く共これさへ守つて頂けば大願成就と斷言し得る條々である。

#### (イ) 妄りに移動してはならない。

先づ筆者はスローガンとして第一に此の言葉を掲げる。前述の通り耕地の決定は帝國官憲と海興當事者との合議で充分有利な諸條件を備へた耕地

を選択し、その契約條件も最善を期待してあるのであるから、先づ此の點では不平不満の起らう筈がないわけである。が、實際には遺憾ながら頻々として一農年期を破棄して中途に退耕する者を生ずる。其の原因を探つて見るに大概作業の苦痛待遇上の不満、經濟上の苦痛、監督支配人に對する個人的な感情の悪化、他耕地への自覺なき美望等によるものが多いやうである。

作業の苦痛は一應肯ける。氣候、農法の全く日本と異なる未見の地に住んで風俗、習慣、言語になれず、規則正しい労働に従事するのであるから慣れぬ間は比較的苦痛を伴ふであらう。が、之は比較的話であつて眞に日本農村の労働に慣れた者に取つては何でも無い程度である。熱湯の如き炎天下の水田に田草取る事と、何れに輕重があらうとは思はれない。三里、四里を遠しとせず肥車を曳くことさへあつたではないか、場合によつて

は寧ろ樂だと言つて良い。たゞ都會地出身とか、農業の経験の無い者、自ら鋤を取つた事のない農民とかに取つては、生れて初めての野良仕事である。勿論苦痛に違ひない。乍然、之は當然過ぎる程の當然事であつて、之を標準として耕地労働は辛いものと斷言し、放言するに至つては當らざるも甚しい暴言と言はねばならぬ。更に時間正しく規則的の労働が良くないと言ふのも大に間違つて居る。之は能率、保健、經濟等の方面から論じても全く必要なことであつて、珈琲耕地の如き大農式經營にあつては根本的必須の方法である。之は方法として最良の方法であり、之に慣れないのが悪いのであつて、之を不満とするは理由とならぬ。日本帝國の軍隊生活に經驗を有つ者は、如何に時間を以てする動作が有効なものであるか、多言を用ひずして理解出来るであらう。要之、作業の苦痛は移動の理由とはなり得ない。宜しく熱意

を以て一日も早く作業を習得し、之に熟達すべきである。

待遇上の不満は時に支配人、監督等に對する感情の悪化を伴つて中途退耕の理由となるが之も作業に充分の理解と熟練なき點に根ざす事が多い。コロノとしての待遇は契約條件に於て原則的に骨子が決定される。夫れ以上は全く個人的の性質を帯びた問題となつて来る。一旦契約を承諾した以上當然の權利義務が発生し、その限りに於て待遇云々が問題となる。その範圍外に於ては各自の努力如何によつて良化するか悪化するかの場合が有り得る。耕地は一人でもコロノを使用したいのが眞の心持である。故に若し萬一理解し得られない程度の待遇があつたとしても、之は話の仕やうによつては解決のつく場合が多い。「先づ與へよ。然らば與へられん」で、先づ自ら義務をつくし情誼をつくすを先にすべきであつて、妄りに徒黨を作

り示威的態度を示す等の如きは宜しくない。慎重に行動すべきである。現行ブラジル法規は農村労働者の保護に頗る篤い。労働賃銀の種々の保證を初めとして寧ろ耕主側の反感を受けた程である。以て待遇改善の狀を察すべきであり、往年「耕地地獄」の語を以て流布された所は單に薄志弱行の徒の誣言であつて笑止に耐へない。之も充分なる中途退耕の理由とは言ひ難い。

俗に「他人の商賣は儲かるやうに見へる」と言はれて居る。其の實同じ程度のものであつても何となく自分より儲かるやうに見へて氣のもめる事を言つたものであるが、之は人間性の弱い點を穿つた間違ひのない所である。一旦耕地に入つて、暫くして少し許り様子が判つて来ると、何となく他耕地の條件が良く思はれ出して始終心持を動搖させる。曰く賃銀が高い、間作が多い、日用物資の前貸が自由だ等々、一見頗る有利に見える契約

條件其他を見聞して、前後の考も無く一圖に之を羨望し遂には中途退耕の理由として採用する。所で耕地の經營費は大小の差こそあれ大體に於て程度の定つたものであり、勞力は不足勝ちである故に、その物質上精神上の待遇に於ても、コロノに接する所は大した差異はあらう筈がない。除草、採取の賃銀が高ければ必ずその耕地が作業上幾多の困難や不便を伴つて居る場合が多い。石山でエインシャード（ブラジル鋤の一種）が一ヶ月に一本以上も磨滅するとか、間作や餘作をさせないとか其他種々の缺點があるものである。間作、餘作が多ければ賃銀は低い。日用物資の前借を許す代りに、單價が非常に高かつて結局清算して見ると労働収入の大半以上を支拂つた結果を見たりする事が多い。兎に角條件があまり良すぎると言ふことは何か曰くがあるものと見て之を羨む前に先づ要心して見なくてはならぬ。此の心得を忘れて徒ら



に利に走つては飛んだ失敗を招くものである。之も中途退耕の理由とは決して成り得ない。

更に、以上の如き中途退耕が全く意味なく理由なきものである以外に、それが甚しく不利であるといふ重大な移動不可の理由がある。元來、耕地に於ける經驗はブラジルに於ける農法、風俗、習慣、言語、生活様式、風土等に習熟する最良の便法として積むべき必要があり之を極力推奨めるものであるが、耕地生活は單に如上の利益ばかりでなく、有形無形に多くを齎らして呉れるのであるから、寧ろ筆者は一農年と言はず、出来る丈



(場農スマーニニア興海) 場燥乾の非珈

け長くその經驗を積んで貰ひたいと思つて居る。耕地生活は全く他日獨立後の自力經營に強き自信と固き基礎とを與へるものであつて、耕地の經營方法、資金の運轉、施設の管理、労働者の使役法等すべて耕地時代に習得した知識が土臺となり、更に苦痛に耐へ規律を守る勇氣の涵養は、處生上の精神修養となつて根本的な成功の秘鍵となるのである。具體的な例は一々枚舉に遑なき程であるが、今日成功を謳はるゝ先人はすべて耕地生活時代に自ら得心の行くまで經驗を積み之を資本として獨立した人々であつた。功を急ぎ利に

走つた人々の末路はまことに惘然たるものがある轉々たる移動は冗費を散じ、經驗を薄め、勞して効少しもない。而して最も大切なる信用を失ふこと甚しい。宜しく心して動かさること泰山の如き態度をもつてほしい。

(口) 功を急いでほならない。

何人も早く獨立し早く成功したいと希ふことは人情である。無理も無い話ではあるが、少くともブラジル移住の上に於ては危険千萬である。人の能力は各人によつて十人十色悉く異なる如く、成功の道程も自ら千差萬別であるが、唯一つ前後始終を一貫して變らぬものは、確實安全なる一歩々々を推積して遂には千萬里の遠きに達するの一事である。泰西の名言に「確實に而も悠々と」進むことが成功への唯一路であると教へ、日本の俚諺に「急がば廻れ」と稱へ、「重荷を負ふて遠き

道を行くが如し」と喝破したる如き、今日ブラジルに於ても、其のまゝ移して以て取るに足る金言である。急げば自然無理をする。相當以上に肉體を用ふ。否酷使する結果大切な場合となつて最早其の用を爲さぬ。食ふ物も食はずに只管資金を蓄積せんと努める結果、營養不良を來して肉體から唯一の資本とも言ふべき勞力を奪つてしまふ。經驗の不充分は大切な場合に計畫の粗漏と經營の不備と二重の拍車となつて成功を失敗の方へ追ひやつて了ふ。耕地生活は慣れるだけ樂にもなり、信用も増し蓄財も出来る。急いで獨立して三、四年を間誤つくよりは、寧ろその間を耕地に在つて忍耐した方が結果から見て頗る好成绩を擧げるものである。之も實例は數へ切れぬ程ある。吳々も急がずあはてず、専ら自己の完成を期すべきである寸前を惜しまねば必ず數尺を抜きん出ることが出来るものである。

(ハ) 勞力の合理化を計らねば  
ならない。

契約移民の家族構成の意義が、他日耕地生活上重大なる性質を帯び來るものである事は、隨所に之を述べて來た。更に反覆して説明する必要はないが、茲には一言耕地の實際に就て注意を促しておきたい。

耕地勞働に於ては、苟しくも獨り歩きの出來ぬ幼児や起居の不自由な老人、甚しきは不具でない限り、如何なる男女でも役に立たぬ者はなく、役に立たすべき仕事が無いとは言は



れない。實に仕事が多く多忙を極むるものである極言すれば勞力は幾何ほどあつても之で充分だと言ふことは決して無いと言つて良い。猫の手でもほしい位である。故に家族構成員が多く、之が中壯年であつて而も結合が強ければ、これに越した強味はないのであるが、如何に勞働力が多くともその使用法が拙劣であつたり間違つて居たりしては、結局何の効果も期待出來ないことになる。そこで一家勞働力の合理化が必要となつて來る。と言つて決して難かしい事では無い。たゞ日常の仕事を各人に都合よく割り當て、一家

の勞働負擔を大きくしながら而も各自の負擔を出來るだけ軽くして過勞に陥らしめず、愉快に其の日の日課を果して行くやうにすれば良いのである。その爲めには一家の和合が第一である。各自が我儘を言はず、相互ひに扶け合ひ、慰め合はねばならぬ。更に各自の才能によつて仕事の種類及び分量を預たねばならぬ。炊事、洗濯、清掃、子守、看護等萬端の家事に費す勞力と時間と、耕地勞働に費す勞力と時間との關係をよく考慮して、此の兩者が相錯綜せぬやうにしなければならぬ。之は小なる勞力を強大にし、従つて効果多からしむる唯一の方法である。珈琲果實採取の時は高い梢の果實を採るに小梯子を用ふるが、之に乗つて仕事をすることは大概大人である。老人、女子、小兒は主として手の届く限りの下枝である。而も一同の勞力は完全に發揮されて渾然一つとなり偉大な能率を擧げるのである。即ち各自の力が各々其所を

得て最大限にまで發揮されるのである。此の骨を忘れてはならない。更に、各自が午前中に其の日の勞働分量の四分の三を少くとも仕遂げるやうに勞働の緩急を心掛ける必要がある。之は午後になると熱くなり、従つて疲勞が加はるから能率が下がり、無理をすれば身體を痛めてしまふ。之を避けるためである。尙、日曜及び休日は出来るだけ休息するが良い。ブラジルでは年中百姓の仕事があるために、年中働かなくてはならぬから、日本の如く冬期の五ヶ月内外は全く休み、愈々農期に入れば日曜日もななく働くと云ふ様な農閑農繁の區別が立たない。故に日本式に休日も構はず働き通すと最初の間は何ともないが、四、五年もすると其影響は必ず身體を弱め中途にして挫折し、折角の努力を水泡に歸する虞れがある。要之、すべて勞働力の合理的使用を心掛けることは成功の第一歩と言つて良いと

思ふ。

#### 四、生活合理化の必要

労働力の源泉は肉體にある。故に肉體の健全を計らなければ上述の如き労働力の合理的使用も望み得ないわけである。のみならず健康を維持し労働力を増進すると言ふことは、先づ日常の生活を正しく導いて行かねば到底望まれない。乃ち生活合理化をお奨めする所以である。

##### (イ) 營養を採れ

言ふまでもなく健康維持の第一歩は營養の良否に在る。如何に健康を誇る人でも、營養不良に陥つては活動を持続する事は出来まい。元來日本人は此の根本的な事柄を軽く見て居る。或は營養を攝ると言ふ事と贅澤をする事と混同して居る。山の中で鯛の刺身を食へと言ふのではない。食べれ

ば直ちに血となり肉となる物を食へと言ふのである。由來日本農民は傳統的に所謂粗食に甘んじて來た。寧ろ之を誇りとして居た傾がある。質實剛健、眞に結構であるがそれも程度によりけりで、度を過しては却つて良くない。

日本流に味噌汁と澤庵漬、お茶づけさら／＼が悪いとは言はない。また食べたければブラジルに住んでも只今は自由に食べられる。が、それでは耕地労働にも其他の農業労働にも耐へて行くだけの體力は養つて行けない。時間的にも可なり多量の勞力を必要とし、其の上氣候其他の影響もあつて、何の點から考へても日本流の食物では力が足らぬ。ブラジル農村では別に牛、豚を殺すに日本のやうに八釜しい規則は勵行されて居ない。自由に飼ひ、自由に殺して良い。従つて自由に安價に食べる事が出来る。

ブラジル農家の普通食物としては米、菜豆フェソールと稱

する小豆と鶏豆との合の子のやうな豆、之が主食物で、これを豚脂(バーニア)で調理する。米は炊く前に豚脂でいためて、普通日本流に炊く。トマトを入れると一層味も良く營養價を増す。菜豆は普通に煮て軟かくなつた時、矢張り少量の豚脂でいため鹽で味をつけて再び煮る。中へ大蒜(アリヨ)又は玉葱(セボラ)、菜(コウベ)の類を、或は牛豚肉等を細かく刻んで入れると風味を増す。熱い飯米に此の菜豆をかけて食べる。

慣れぬ間は一寸食べ難いかも知れないが、慣れて來ると一日も缺かされなくなる。つまり身體が之を要求して來るのである。見らるゝ通り頗る營養に富んだもので、材料はすべて自給自足だから極めて安價に済む。副食物としては玉蜀黍粉、マシチオカと稱する山芋の類及びその澱粉、野菜、牛豚鶏肉、鶏卵、所によつては魚肉も自由に食膳に供し得る。すべて自給によつて買はずに出来る

ことが強味であつて、その上に營養價は高く價は安い。而も味噌、醬油から豆腐、こんにやくに至るまで、作らうと思へば出来るから、山中鋤焼に舌鼓み打つ事も敢て難くない。斯様にブラジル農家の食物は、安價で營養に富んで居る。昨今ブラジルの有識階級の人々がよく日本人のことを研究してゐるが、其の研究材料の内に日本人には肺病患者やトラホーム患者が多い。日本人には病氣が非常に感染し易い。黒人の如きは非衛生的な生活をして居るが、日本人とは比較にならぬ程これ等の病氣が尠い。これは畢竟日本人の食物關係と労働の過激によるのだらうと説いてある。日本人にとつては最も注意すべきことで、過去の事實を見ても斯く思はれる。ブラジルで所謂赤手空拳で成功せんとするには先づ第一に健康である。其保健上注意すべきは日常の生活である。

日本人は日常の生活は茶漬に漬物位で済して居

る。そして祭日とか招客の場合には、日本から輸入された高價な罐詰類とか乾物、酒等を買入れて暴飲暴食をする。日本人に胃腸病や肺病患者の多いのは當然である。茲に於て特に農家の人々に注意したいのは、日常の食物をブラジル式の調理によつて充分に營養をとることである。然もこれが最も經濟的である。例へば前述の通りブラジル式の飯、豆、新鮮な野菜類、卵、鶏、果物としてバナナ、密柑、パイヤ等何れも自分のところで出來得るものである。



日曜日は楽しむ

日本人は餘りに粗食に慣れて居るためか、餘りにも食物に重きを置かぬ様に見へる。宜しくブラジル農村流の恵まれた食物に一日も早く慣れ、充分に體力を養ふべきである。

(口) 充分休息せよ

休息と言ふことは、だらしなく横になつて居る意味ではない。肉體及び精神の疲労を恢復することを意味する。耕地労働は最初の間は非常に苦痛である。そこで最も合理的な休息方法としては、

日曜及び祭日には充分休める様に仕事の順序をなすこと。  
早寝をすること。  
寢室、寢臺等を出來るだけ快適にして心地よく寝り休めるやうにすること。  
精神を平靜に保つやうにすること。  
過勞に陥らぬやうに注意すること。  
疲労恢復のためと稱して強烈な酒類例へば甘蔗酒の如きを用ひて一時を誤麻化してはいけない等々を注意し、原則として規則正しい生活を心掛けねばならぬ。

(ハ) 衛生を重んぜよ

日本移民は清潔好きだといふ定評である。入浴も好きなら掃除も好き、洗濯も缺かさなない。之は或る程度まで事實であるが、其の欲する所は多く精神的に出で快感を喜ぶに過ぎない。其の證據に

は日本人の農家に限つて萬年床と云はんか、脱穀然たる床があつて、室内の掃除をしない。未熟の果物を平氣で食べ、食器、皿、手等を洗はぬ儘に食事を攝る。下らぬ賣藥を信仰し、發熱を輕蔑し醫者に見せる事を遠慮し、腹中に病害蟲を保護飼養し、兩眼失明するまでトラホームを放置しておくなど、凡そ清潔好きとは天地ほどの相違ある一面を示して居る。斯くの如きは眞に衛生を重んずるとは言はれない。百姓がそんな事を構つて居られるかと放言する人は、百姓が人間でないと言ふ徒輩であつて大間違ひである。風土の全く日本と異なるブラジルに住んでは、矢張り其の心算で要心せねばならぬ。マラリアやアミーバ赤痢は、兎もすると過大に宣傳されて居るが、之は寧ろ原始林開拓に付きものであると言つて良く、之を恐れて居ては餘りに意氣地の無い話である。之に對しては充分豫防の道もあり療養の方法もあつて、決して

て怖れるに及ばない。之を輕蔑して何の手段をも構じなかつた不心得者のみが失敗するのである。土蛋をほり出した痕、小さな切傷等を放置しておいた許りに恐るべき破傷風に斃れた例もある。すべて所謂衛生を重んじないからである。病氣にならぬやう、病氣になつたら早く治療するやう、此の心掛けが無かつたから失敗したのである。病氣は自分のみが苦しむのではない。一家を苦しめ、財を散じ、業を損ずる。充分に心して保健に注意せねば百年に悔を残す結果となる。

### (二) 家庭を愛せ

此も今更喋々する必要はない。が實際には家庭を愛さなかつた許りに、悲劇に終つた例が數へ切れない。一家の勞力は和合によつて其の全力を發揮し得る。一家の和合を亂して決して耕地生活は續けられない。家人を酷使し、虐使する結果はた

ゞ不和と過勞とを招き、一家離散、衰亡の因を爲すのみである。一家の主たる者が酒に酔ひ、賭博に耽り、遊惰に日を送つて業務を怠り、只管家人を願使虐待して顧みぬに至つては、最早人間として見るわけに参らない。いくら働いても駄目ですと言ふ家庭を窺いて見ると、屹度こう言ふ家庭である。一家和合、互ひに我が家を愛する心掛けこそ成功の秘鍵である。

### (ホ) 心に餘裕を持つて

悠々たる天地を俯仰して農を行ふ。凡そ性急といふ觀念とは全く矛盾した話である。昔はお百姓といふと悠然たることの代名詞位に考へられて居たが、今は兎もすると都會人より性急である。殊に耕地生活をして居る日本移民は入耕したその日から退耕することを考へ、獨立の日を夢想し、お互ひに顔を合はせれば退耕を談じ、獨立を論じそ

の日の一刻も速かならん事を希ひ、待ち切れなくなるは無理をして飛び出して終ふ。飛び出した揚句果して思つた通りに行つたかと言へば、斷然反對、悉く失敗に終り、再びコロノの第一課から出直す者が多い。後の鳥が先になると言ふが、何時までこんな處に辛棒して居るんだと嘲笑され乍ら隱忍自重徐ろに基礎を確立した人は、却つて此の失敗者を憫みつゝ悠々として成功の彼岸を望み、順風に帆を揚げて居る。心を天地の悠久に托し、草木の自然に成長しゆく理窟をよく理解すれば、決して急ぎ慌てる筈はないのである。耕地生活は一種の連續する試練と心得て之を突破する覺悟を持つてば、心は自ら悠々たる餘裕を生ずる。満足を感じる。生活を樂しむ。將來への計畫に遺漏なき萬全の策が生れて来る。耕地生活から始まつて終生を通じ悠々たる心境は、人間を完成する唯一の道であると信ずる。

どうせ一農年の耕地生活だと云ふ觀念を捨てる必要がある。此の觀念あるためにブラジル農業の研究を怠り、身體を酷使し、生活全體を不愉快にし、一生の損を招く。野菜を作り草花を樂しみ、家禽を飼ひ、牛馬を養ひ、寢室を快適にし、居間を飾る。すべて餘裕ある心の姿であつて何となく奥床しい限りである。屢々日本移民は生活を生き外國移民は生活を樂しむと云ふ批評を耳にするが當れりと言はざるを得ない。日本移民は勤勉であると言ふ事を何人も否定出来ない。而もその勤勉たるや一面から言ふと力一杯使ひ切つた勤勉であつて餘力がない。一度打撃を受けると再起する力に乏しい憾みがある。心のゆとりが無いからである。

餘りつきつめて物事を考へると、一寸した事にも不滿を感じ不平を抱くやうになる。耕地生活には特に之が禁物である。心にゆとりを持たせて物

事を考へなければ耕地の生活は一日として出来るものではない。ブラジル永住が目的である以上、耕地生活を急いで切り上げるために下らぬ努力や餘計な心疲れは意味をなさない。宜しく悠々然として歌ひ、踊り、笑ひ、そして腰を据へて働く可きである。

## 五、収入支出の樹て方

以上少しく抽象に過ぎたが耕地生活上必須の生活態度を述べた。次には具體的にコロノの經濟は如何にして運用すべきであるか、その収入を考へ支出を案じて最も妥當安全と信する處を例示し、讀者の参考に供し度いと思ふ。

先づコロノの収入に就てその源泉及び金額に就て述べる。

コロノの収入源泉は普通、

一、間作若くは餘作からの收穫

二、除草賃銀

三、採果賃銀

四、臨時日雇賃銀

五、雜收入

の五種類が考へられる。(一)(二)(三)は耕地就働契約によつて自ら範圍が略々決定するが、(四)(五)は契約外源泉でその収入は不定と見てよい。

間作とは契約によつて定められた珈琲樹受持區域を限り樹間の空地を利用し、主として受持コロノの食料に供すべき米、豆類、玉蜀黍等の植付を許すを言ひ、其の栽培は珈琲樹を損傷せざる程度に限られて居る。若し間作を許すことが珈琲樹にとつて不利を來す場合には、別に餘作地と稱する栽培地を貸與して食料品の自給を計らしめて居る結局間作と言ひ、餘作と言ひ、實質に於ては同じものであつて、何れもコロノの食料品を自作せし

むるものである。間作及び餘作を許すことは今日一般に行はるゝ契約條件であつて、耕地により其の程度に厚薄はあるが一般の通念となつて居る。稀に間作も許さず、餘作地も與へない、只賃銀のみと云ふ耕地も無いでは無いが、之は契約條件不良耕地として問題とならない。餘作地は人によつて雜作地とも言ひ、普通受持珈琲樹何千本に何町歩と言つた割合で貸與する。各耕地の實狀によつて其の貸與面積は一定しない。間作が有利か餘作が有利かと言ふ問題も仲々面倒な問題で一概に決定出来ない。何れにせよ、自家消費量だけは充分に收穫出來て尙餘りあるのが普通である。

## ◇収入支出の樹て方の實際

收支を研究する前に心得て置くべきことは收穫量、生活費及び諸物價の標準であるが、これは一定して論ずることは不可能である。

收穫量は土地により、其の年の天候により、又は手入れ如何により大差がある。生活費及び諸物價は常に變動があるためである。茲に示す收穫量はサンパウロ州に於ける普通の成績を示したに過ぎない。

生活費及び諸物價は從來の變動の大要を示し、收支計算の基礎は昭和八年十二月末調査を標準とする。

(A表) 收穫量 (一町歩當リ)

一、米 作

收 量 三〇袋乃至三五袋(六〇町入)

二、玉蜀黍 (約三、三六〇株)

收 量 牛車 三臺  
袋 四二袋

三、菜 豆(フェジョン)

收 量 一〇〇袋(六〇町入)

四、甘蔗 (一町歩當り三、五〇〇株  
乃至四、〇〇〇株)

收量 四〇噸乃至五〇噸  
五、棉花 (同上約一、七〇〇株)  
收量 實棉 九〇〇疋

(B表)農場渡シ生産物價格表(單位價)

品名	單位	自一九二四年 至一九二九年	一九三三年	昭和八年
白米	一俵六〇疋	二〇一〇〇	二二〇	二二五
白米	一俵六〇疋	四五一〇〇	三〇〇	四一五
菜豆	一俵一〇〇立	三〇一七〇	一〇〇	一五〇
皮付珈琲	一俵一〇〇立	三〇一五〇	一三〇	一三〇
實棉	一疋	八一三〇	一〇〇	一四〇
玉蜀黍	一斗	四五一〇〇	五〇	五〇
甘藷	一俵	一五一二〇	一三〇	一五〇
マモナ	一疋	一〇〇六〇〇	四〇〇	三〇〇
豚肉	一五疋	二五〇一〇〇	二五	二五

生 繭 一疋 六—一〇 五 四三

註—1. 實棉及び豚肉は一五疋を一アローバと稱し一單位として居る。

- 一九二四年乃至一九二九年はブラジル農界の最高景氣を現出した時代。
- 一九三〇年以降急激に不況となり農界は大打撃を受け破産状態を現出した。
- 一九三三年度は少しく景氣恢復を見せた。
- 以下の收支計算は一九三三年度を標準とした將來多少景氣による變動は勿論あるものと覺悟する必要がある。

(C表)食料品價格表(一ヶ年平均年別)

品名	單位	一九二〇年	一九二四年	一九三〇年	一九三三年
白米	一俵六〇疋	二五〇	一三〇	四〇〇	三三〇
菜豆	一俵一〇〇	一〇〇	一八〇	一五〇	一八〇
メリケン粉	一俵四四疋	三三〇	五四〇	四〇〇	四三〇
赤砂糖	一俵六〇疋	六〇〇	九五〇	四五〇	六〇〇

牛肉	一疋	一〇	一二	一二	一二
豚肉	一疋	一五	二五	二〇	一八
豚脂	一俵	二五	四〇	三五	三五
玉蜀黍粉	一〇立	一〇	三〇	一五	一五

註—1. 單位ミルレイス  
2. 一九二四年以降一九二九年迄好景氣時代の物價は非常に高騰した。  
3. 一九三〇年乃至一九三二年の不況時代は之に反して格段の下落を示した。  
4. 一九三三年度は少しく反撥を示した。即ち景氣が少しく好轉したと見らるゝ所以である。  
5. 景氣の如何によつて物價の高低に甚しき程度のある事に留意されたい。  
前述の通り收穫量及び諸物價の一定せぬ外に、家族の勞働能率、體驗の有無により收支上大なる差異を生ずる。  
収入支出の樹て方の基礎數字として、

一、家族單位と勞働能率  
二、耕地の契約條件及び雜作收量  
三、コロノの生活費  
に對する普通勞働者を基礎とした實際に近き標準數字を以て假定とすれば、

一、家族單位と勞働能率

家族單位 大人三人 (滿十二歳以上) 子供二人  
勞働能率  
日本から來た當初は仕事に慣れぬため實際の能率を擧げ得ない。まして日本に於て全く農業に經驗のない者は體驗者の三分の一の仕事が出来ないのである。仕事によく慣れ充分の仕事が出来来る迄には尠くも三ヶ年を要するのである。家族の仕事量は大體次表を標準とする。  
除 草 初年度 五千株 二年度 六千株 三年度 七千株

摘實 一五〇袋 二五〇袋 三〇〇袋  
 日給 二〇日 四〇日 四〇日  
 餘作地 一町歩 一町歩二段 二町歩  
 前記の内、摘實は豊凶の年により數量に大差あるも、大體を示したものである。日給仕事は自分の請負仕事の外に日雇人(カマラーダ)として臨時に耕地の仕事をするので、家族員中男子が多ければ日給が多い。

二、耕地の契約條件及び雜作收量

珈琲耕地の契約條件は、一九二九年即ち昭和四年迄は勞銀は高かつたが、同年末珈琲相場の大暴落以來勞銀は急に低下したのである。また珈琲耕地の契約賃銀は耕地により幾分の相違がある。過去及び最近の賃銀は大體次の様である。

年 度	除草賃一千本に付き(年)	採果賃一袋(二〇立)	日 給
-----	--------------	------------	-----

一九二〇年	一三〇—一八〇	一〇〇—一五〇	二五—三〇
一九二五年	二五〇—三五〇	一八—二五	三五—四五
一九二九年	三三〇—四五〇	二五—三〇	五〇—六〇
一九三〇年	二五〇—三五〇	二〇—二五	四〇—五〇
一九三一年	二〇—二五〇	一五—二〇	三〇—四〇
一九三二年	一五〇—二五〇	一五—二〇	三〇—四〇
一九三三年	一三〇—二五〇	一〇—二〇	三〇—六〇

一九三三年末迄は珈琲價額が少しも回復せぬので賃銀は變化がない。  
 故に珈琲耕地に於ける現在(自一九三三年度)の平均したる標準は大體次の如くである。

除草賃	一千本ニ付キ	一八〇・〇
採果賃	一袋ニ付キ	一・六
日 給	食事ナシ	四・〇

雜作收量とは、間作及び餘作地よりの收穫物を言ふので、これは耕地により又家族の勞働能率によつて全く違ふのである。

三、コロノの生活費

受持珈琲樹の半分に玉蜀黍(ミリーヨ)を許し、他の半分に菜豆(フェジョン)の間作を許し、他に前述の通りの餘作地を與へるものと假定すれば、

初 年 度	第二年度	第三年度
收獲量	賣却量	收獲量
賣却量	賣却量	賣却量
籾	三五袋	三五袋
菜豆、(期二)	三五袋	三五袋
玉蜀黍	三牛車	四牛車 一牛車 五牛車 二牛車

餘作地にはマンジョカ、芋類、自家用の大豆、野菜等も植ゑるので、前記の雜作收量は面積の割合に尠く見えてあるのである。  
 珈琲園内の間作も許されてあつても全部に植ゑる人は尠いので、比較的数量を減じて見たのである。

入耕當時コロノにして生活費がなければ耕地は必要な食料品、農具等を貸賣りしてくれる。代金はコロノの收入から差引清算する。日本人は最初ブラジル式の食物を調理することが判らないため主に白米、豆、鹽、乾鰯等を購入し、豚脂や肉類は餘り求めないのである。然し漸次ブラジル式の調理を見習ひ、又味ひ得て自ら進んで好むやうになる。故に次に示す生活費はブラジル式の料理とするものとして計上して居る。また自家で出來得るものは生活費に入れずして、單に金によつて支出するものを計上してある。従つて初年度より二年度の方が生活費が安くなつてゐる。  
 次に掲ぐる表は昭和八年度末の物價C表に従つて五人家族三人勞働を標準とし、コロノ及び植民地生活實費最低額を示したものである。



生活費明細 (自八月一—至七月一年間)

食料品種別	第一年度		第二年度		備考
	單價	購入期間	數量	金額	
白米	一袋五〇	九月	七袋	三五〇	金額單位ミルレイス 自作ニヨリ購入ノ要ナシ
菜豆	一袋一八	五月	〇五袋	九	右同
メリケン粉	一袋四五	一ケ年	三袋	一三五	マンチオカ粉、玉蜀黍粉等ヲ利用スレバヨリ以下ニ安價トナル
赤砂糖	一袋六五	一ケ年	三袋	一九五	甘蔗ヲ以テ代用スルモ可
鹽	一斤〇五	一ケ年	六〇斤	三〇	
豚脂ト肉類	—	一ケ年	—	三〇	自家收穫ニヨリ半減第三年度ヨリ購入ノ要ナシ
野菜類	—	五月	—	八〇	自家收穫ニテ節約シ得
其他雜	月平均一〇	一ケ年	—	一三〇	茶、珈琲、調味料其ノ他臨時購入食料品
計	—	—	—	一三三九	六六〇
消耗品費	數量	金額	數量	金額	備考
洗濯石鹼	五〇斤	六〇	—	—	金額單位ミルレイス
石油	二罐	七〇	—	—	自家製造ニテ節約シ得
ラムプホヤ	一打	二四	—	—	電燈ノ設備アル耕地ニ於テハ料金ニ振りカヘル
マツチ	一〇包	二四	—	—	

調度品費	第一年度		第二年度		備考
	數量	金額	數量	金額	
釘・針金類	—	—	—	—	
麻絲紐類	五束	三〇	八束	三〇	收穫物ヲ入ル、袋(サツコ)ヲ縫フニ用フ
被服	—	—	—	—	一〇〇 一年度ハ日本ヨリ携持スルモノヲ以テ充分ナリ
労働靴	—	—	五足	一〇〇	
計	—	三六〇	—	四六八	郵税其ノ他ヲ含ム
種目	數量 <td>金額</td> <td>數量</td> <td>金額</td> <td>備考</td>	金額	數量	金額	備考
ラムプ	二箇	三三	一箇	六	金額單位ミルレイス
珈琲挽器	一箇	三〇	—	—	補充
珈琲焙煎器	一箇	六	—	—	
帶	六本	一八	六本	一八	
飲料水入レ樽	二箇	一五	一箇	七五	補充
家具製造用板	—	—	—	—	
食卓及腰掛材料	—	—	—	—	
雜品	—	五〇	—	—	
計	—	一八一	—	八二五	

註—食器類寢具類炊事道具類は日本より持參するものと見て計上せず、新に購入するとすれば別に約百ミルを要すと見て良し。

種目	第一年度		第二年度		備考
	月額	金額	月額	金額	
教育費	五	六〇	—	六〇	金額單位ミルレイス 公立學校ノアルトコロハ不用ナルモ日本 語ヲ教ユル場合ノ費用
醫藥費	平均一〇	一三〇	—	一三〇	
實際費	平均一〇	一三〇	—	一三〇	
交際費其他雜費	平均一〇	一三〇	—	一三〇	
農具費	—	—	—	—	
種目	單價	數量	金額	備考	
エンシヤード	八五	三箇	二五五	除草用鋤	
エンシヤードン	七〇	一箇	七〇	重鋤	
フオイセ	—	一箇	—	雜木伐採鎌	
マシヤード	—	一箇	—	大斧	
播種器	—	一箇	—	輕其ノ他ノ播種ニ用フ	
篩	—	三箇	—	珈琲採取用	
ヤスリ	—	六箇	—	研究用	
計	—	—	一三三〇	金額單位ミルレイス	

註ト、鎌は三挺程日本から持參するが良い。

- 農具は一般に日本品では役に立たぬから是非買はねばならぬ。
- 如上の品は耕地労働に就てのもので植民地移住地に於ては少しく異なる。
- 第二年度以降の補充費は三、四割即ち五〇ミルレイス内外と見れば良い。

以上の諸表を綜合すれば、一ケ年間總計費（單位ミルレイス）

費目	第一年度	第二年度	第三年度
食料品費	一、二元	六六〇	以下第二年度 ニ同ジト見ル
消耗品費	二六〇	四六八	
調度品費	一八一	八二五	
教育費	六〇	六〇	
醫藥費	一三〇	一三〇	
交際費雜費	一三〇	一三〇	
農具費	一三三	五〇	
計	一、九三三	一、五五九	

大體上表の如き標準となるが元來生計費は家族

の人数、生活程度、運用の巧拙等によつて大いに異り其他物價の高低にも左右されるから明確に幾何と定めるわけには行かぬが、先づ初年度に於て二コントス・デ・レイス内外（日本貨二五錢を一ミルレイスに換算して約五百圓内外）、第二年度以降一コント六〇〇ミルレイス内外（日本貨四百二十圓内外）と見れば先づ充分である。

ブラジル式を原則として盛んに牛乳を飲み、養鶏、養豚によつて肉類や豚脂を攝取し、玉蜀黍粉マンチオカ等や野菜類を作り、熱量に富み且つ安價に済む食事に慣れる方が良い。

以上の標準に従ひ耕地労働三箇年間の收支計算の概要を示せば凡そ次の如くなる。

◇收支計算

初年度（入耕當年）	單位ミルレイス
收入	
支出	

費目	金額	費目	金額
除草賃銀	九〇〇	生活費全額	一、八八〇
採取賃銀	二四〇	農具費	一三五
日給賃銀	〇		
間餘作收入	五〇〇		
計	一、七〇〇	計	一、九九五

備考 間作及び餘作收入は自家用を控除し賣却したる収入を計上せり。  
以下各表とも之に倣ふ。

生産物の賣價表は(B表)による。  
日貨に換算する場合は伯貨四ミルレイスにつき日貨一圓とす。

第二年度			
収入	金額	支出	金額
除草	一、〇〇〇	生活費全額	一、五九五

採取	金額	農具補給	金額
日給	一六〇		五〇〇
間餘作收入	八五		
家畜其他雜收	二二〇		
計	二、五八五	計	一、五九五

前年度繰越損  
差引利益金  
第三年度

収入	金額	支出	金額
除草	一、二六〇	生活費全額	一、五九五
採取	四八〇	農具補給	五〇
日給	一六〇		
間餘作收入	一、二五〇		
家畜其他雜收	三〇〇		
計	三、四五〇	計	一、五九五

差引 益 一、八〇五  
前年度繰越 利益金合計 二、六四五

第四年度以下は第三年度程度と見做す。

無論各コロノが必ずしも如上の如き成績を挙げ累年度利益を計上し得るとは言はないが、よく協調し得て且労働能率のあるものは、前記以上の好成绩を示すものも珍らしくない。先づ普通間違ひなくやれば此の程度の成績は確實である。故に少なく共耕地に四、五年辛棒しなければ、直ちに獨立農として自立獨行するわけにはゆかない。(本會パンフレット第二十五輯「獨立農となるの人ために」参照) また唯一農年で退耕したり、中途退耕したりしては非常に損であることが一目瞭然である。初年度は支出が多くて損失を招き易いが、第二年度に於て漸く初年度の損失を取り返へし、幾分の利益を得たに過ぎない。第三年度に於て漸

く純益を計上し他日の基礎資本を蓄積し得る餘裕を生ずるのであつて、少なくとも四年度、五年度まで此の状態を續けて行くのが最も安全確實の方策である。耕地労働を重視し、決して急いではないと言ふ意味は、此の點からも了解出来るであらう。假令充分の資金ある者でも、ブラジルの農法、種々の事情、農業經營等々に充分自信ある経験を積むまで耕地に就働し、一層資金の蓄積に努めた方がよい。充分なる経験と資本、即ち鬼に金棒である。今日五年を屈すれば將來十年を延ばし得ること火を賭るよりも明かだ、現在確固たる地位を築き成功せりと稱せらるゝ眞の篤農家は、すべて此の經路を辿つて來たと斷言してよい。

成功への道 ————  
耕地生活の秘訣終

日伯協發行  
パ フ ィ ャ

二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	輯號	標	題	内	容
ブラジル國政治機構の進展	獨立農となる人々のために	伯國文學	パラ州事情	サンパウロ州の材用植物	エスピリトサント州の歴史地理、物産並に統計的概観	ブラジルの養蠶業				伯國の政治機構を歴史的に説明し現在の伯國政治を認識せしむ	
		伯國文學の近状を述べ、その傾向をうかがふに足る資料を盛る	アマゾン流域の雄州パラ州の全貌を記述せるもの	五八%が森林だと謂はれる伯國中一州サンパウロ州の材用植物を網羅して紹介せるもの	エスピリト・サント州の概要を紹介し將來この地方へ進出せんとする人の参考に資す	ブラジルの養蠶業の大體を記述してその將來を暗示し、更に在留邦人の養蠶業現狀を紹介す					

定 價 十 錢 ・ 送 料 二 錢

(但し第二十二輯「サンパウロ州」)  
(の材用植物に限り定價十二錢)

昭和十一年三月十五日印刷納本  
昭和十一年三月二十日發行

定 價 十 錢

送 料 二 錢

成 功 の 道  
耕 地 生 活 の 秘 訣

編輯兼  
發行人

原 梅 三 郎

神戸市須磨區潮見臺町四丁目七三

印刷所

明 輝 社

神戸市神戸區三宮町一丁目三二〇

發 行 所

日 伯 協 會

神戸市神戸區海岸通一丁目

電話三宮③二六四六番  
振替口座大阪七八二〇八番

Folheto Trimestral

No. 27

**GUIA PRÁTICA  
DA  
VIDA NAS FAZENDAS**

ASSOCIAÇÃO NIPPON-BRASILEIRA

**Kobe, Março de 1936**

終